

## 多気町教育委員会

### 多気町松阪市学校組合教育委員会

<所在地>

〒519-2181 多気郡多気町相可 1587 番地 1

TEL 0598-38-1121

E-mail kyoiku@town.mie-taki.lg.jp

#### I 事業のねらい

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちを取り巻く課題の解決や、子どもたちの豊かな成長の支援ができるような「地域とともにある学校づくり」を目指す。多気町では、町内すべての小中学校でコミュニティ・スクール（以下「CS」と表記）を導入しており、地域とともにある学校づくりを行うことを目標としている。

#### II 具体的な取組例

##### 1 運営委員会の設置やコーディネーター等の研修

###### (1) 地域コーディネーターの配置

令和7年度は、全ての小中学校に計6人の地域コーディネーターを配置しており、主に活動の企画やその調整等の役割を担っている。また、学校運営協議会の事務局としての役割も担っている。

###### (2) 運営協議会の設置

町内すべての小中学校で運営協議会を設置している。中でも、勢和小学校と勢和中学校では小中連携し、中学校区でひとつの運営協議会を設置している。

##### 2 「地域学校協働活動」の実施・運営について

###### (1) 勢和中学校区での取組

勢和小学校4年生は、勢和図書館職員による「噛むことの大切さ」の絵本の読み聞かせを通し



て、歯や口の働きについて学び、食品を食べ比べて噛む回数を数え、噛む習慣や歯磨きの大切さについて地域の方から学んだ。

勢和中学校では、勢和地区に関する内容を「生活」、「環境」、「産業」、「歴史」の四つのテーマに分け、小グループで課題を設定し、地域の方々への聞き取りや資料収集を通して探究活動を行った。プレゼンテーションや劇、ダンスなど多様な表現方法を用いて文化祭で成果を発表し、生徒一人一人が役割を意識しながら主体的に取り組む姿が見られた。



###### (2) 相可小学校での取組

「子どもたちが主体的に取り組める活動」として自然体験やキャンプ、避難所体験活動を2回にわたって実施した。避難所体験活動では、多気町や相可高校と連携を行い、給水車の派遣や子どもたちが防災テントを設営し、そのテントで宿泊する等の防災体験、子どもたちが考えたメニューを作るため相可高校生と材料の買い出しや食事作りを行い、普段の学校ではできない活動を実施した。

また、県内の地域工芸を学ぶ取組として、伊賀焼づくり体験や組紐体験を実施した。

###### (3) 佐奈小学校での取組

郷土への誇りや愛情を育んでいくことを目的



に地域学習として、3年生を対象に「蜜柑作り体験学習」を、校区内の農家及び地元JA

の協力のもとに年間を通して実施している。

季節ごとに蜜柑農家の作業を実践したり、自

分たちで手入れした蜜柑を味わったりすることによって、地域の主要な農産物である蜜柑について学習している。あわせて、見学を通して地域の人々と出会うことで、自己肯定感や自己有用感を得られる活動を実施している。

#### （４）津田小学校での取組

4, 5, 6年生を対象に、自然体験学習として木工細工を、防災体験学習として防災用のカレーやお菓子の試食体験を実施した。

また、地元の津田地域について学ぶことの重要性を踏まえ、地域の方より「学校」、「祭り」、「遊び」について話を伺い、地域の良さを改めて実感できる取組となっている。



#### （５）外城田小学校での取組

地域学習の一環として「農業を営む農家等による稲作及び果樹作り体験学習」を校区内の農家の協力のもとに、年間を通して実施している。

季節ごとに柿農家の作業を実践したり、自分たちで手入れした柿を味わったりすることによって、地域の主要な農産物である次郎柿について学習している。これらの学習を通じて、地域産業を支える住民の姿や思い、仕事に対する熱意・苦労を直に学ぶことで、地域を大切に思う気持ちを育てている。



#### （６）多気中学校での取組

地域の特産品である「前川次郎柿」について、今年度は、職業体験としての収穫体験のみならず、3年間を通して取り組む課題解決型の学習素材として活用を進めた。

地元農家や企業等の協力により、「柿プリン」のパッケージデザインの作成や地元スーパーでの販売を行い、地域の方と積極的に交流する姿

が見られた。

また、「災害と人権」の学習では、地域の方に参加者を募集し、社会福祉協議会と連携して「HUG（避難所運営ゲーム）」を実施した。地域の方からは、「子どもと同じ目線で話し、学ぶことができた。」など、肯定的な意見をいただき、地域との繋がりがより一層深まる取組となった。

### Ⅲ 取組の検証

#### 1 学校教育活動への支援について

##### （１）成果

学校だけではできない教育や体験活動を通して、郷土愛を育むとともに、自己肯定感を高めることに繋がった。また、異なる年代との交流は、地域住民同士の信頼関係を深め、地域の活性化にも寄与している。

##### （２）課題

地域講師やボランティアの方の高齢化による新しい人材の確保、働き方改革が進められるなかで職員の地域行事への関わり方も課題である。

#### 2 学校・地域の連携について

##### （１）成果

学校運営協議会を中心として、地域の方や各機関との連携が年々深まり、新たな取組のアイデアが次々と生まれている学校もある。

また、

##### （２）課題

地域の講師やボランティア団体等との連携を進め、支援体制をより一層充実させる必要がある。

多気地域の小学校（4校）においては、統合を控えていることから、統合を見据えた活動が必要となってくる。

### Ⅳ 次年度の方針

今年度、成果のあった取組を各運営協議会で共有し、運営協議会間の連携を強化する。